

かわさき区の宝物シート

宝物No.	せんとう 銭湯		
29-4			
エリア	全域	シーズン	通年
	—	日時	
目的	<input type="checkbox"/> 観る <input checked="" type="checkbox"/> 遊ぶ・体験する <input type="checkbox"/> 食べる <input type="checkbox"/> その他		
宝物定義	<input type="checkbox"/> ものづくり <input type="checkbox"/> イベント・祭り <input type="checkbox"/> 味づくり <input checked="" type="checkbox"/> にぎわい <input type="checkbox"/> 現代の文化的なもの <input type="checkbox"/> 港めぐり <input type="checkbox"/> 歴史的なもの <input type="checkbox"/> 人物		
所在地	川崎区新川通り8-6 (川崎浴場組合連合会事務所)		
問い合わせ	川崎浴場組合連合会		
TEL	044-222-4238		
FAX	044-222-4234		
E-mail			
URL	http://www.kawasaki1010.com (川崎銭湯どっと混む)		
交通			



提供：川崎浴場組合連合会

基礎情報

■平成15年(2003)に川崎浴場組合連合会から発行されたミニガイドブック『川崎の銭湯マップ』では、川崎市内の全68軒の銭湯が紹介されている。うち、川崎区内には最多の34軒(平成23年(2011)1月現在)が今も健在で、密度としては全国一であるという。区内に工場労働者が多かった頃の名残であり、川崎区の銭湯は歴史的遺産“宝物”である。

由来・エピソード

■日本人にとって「入浴」の歴史はとても古く、奈良時代に端を発するという。江戸時代に現在の銭湯の元となる形式の「風呂屋」が開かれて以降、上下の身分の隔たりのない裸のつき合いができる場所として広く庶民に親しまれてきた。

■昭和40年代が銭湯数のピークとなり川崎市内で約170軒を数えた(川崎区内では昭和47年(1972)に63軒)。また、昭和50年頃までは、どこの銭湯にも脱衣場には赤ん坊用のベッドが並び、世話をしてくれる女中さんがいたことから母親も自分の入浴に専念することができたという。

■川崎区でも現在自家風呂普及率が90%を超えたというが、たまにはゆったりと銭湯に浸かりたいというニーズは根強いという。そうした人達に少しでも足を運んでもらおうと、各銭湯や川崎市浴場組合連合会では様々な工夫を凝らした取り組みを地道に続けている。そうした結果、今でも川崎区では湾岸地域を除く全域に、20の銭湯が存続している。

■神奈川県下の銭湯では、保護者同伴に限り未就学児童2人まで無料という独自のサービスを展開し、また、通常は大人料金となる中学生も生徒手帳持参の場合100円引きの370円で入浴できるというサービスを実施している。子供連れや中学生だけの入浴客が最近増えているという。さらに川崎浴場組合連合会では社会福祉事業の一環として市や各種福祉団体、地域の方と協力し福祉に関連した様々なサービスを実施している。

【敬老入浴デー】(毎週土曜日) 福寿手帳の「入場優待券」の提示により半額で入浴できる

【敬老の日入浴デー】(9月の老人週間のうち、3日間) 市政だよりの「敬老入浴券」の持参により無料で入浴できる

【親子ふれあい入浴デー】(毎月第4土曜日) 小学生以下(保護者同伴のみ)入浴無料

【ふれあいデイセントー事業】会食やミニデイサービスを行っている団体に地域の公衆浴場を開放、介護保険の対象とならない60歳以上の虚弱な方にミニデイサービスを提供している。利用料金は原則500円。川崎区内の実施銭湯は、平和湯(平成28年(2016)1月現在)

補足・その他

■川崎浴場組合連合会オフィシャルサイト“川崎銭湯どっと混む”では、銭湯に関するさまざまな歴史が紹介され、市内一軒一軒の銭湯の紹介ページも充実している。昔の銭湯の様子や“写真展”など随時更新予定で、また携帯サイトも平成18年(2006)11月15日にスタートした。
www.kawasaki1010.com/mobile

■毎年好評の特製カレンダーが12月頃市内銭湯などで配布される。



関連シート

